

ケイマフリ

39 cm ウミスズメ科

分布は主にカムチャツカ半島東岸から
オホーツク海、日本海までと狭い。
潜水して小魚類を捕える。
手前の断崖が営巣地。



レンズを通して

連載「六月」

写真・文 高田宮妃久子殿下

「海鳥の楽園」天売島

写真・文 高円宮妃久子

昨年の6月、北海道羽幌町の沖合30キロの日本海に浮かぶ天売島に行つてまいりました。長年の夢が叶つての渡島でしたので、ついつい興奮して膨大な数の写真を撮つてしまいました。今月はその中から数枚をご覧に入れながら、3種類の海鳥と「海鳥の楽園」とも呼ばれる天売島について、ご紹介したいと思います。

天売島は周囲12キロ、人口約250人の島です。羽幌港からフェリーで1時間半ほどかかるのですが、海鳥が水面を飛ぶ姿や、潜りながら魚を捕る様子を夢中になって観察・撮影していたら、あっという間でした。

この島は世界有数の海鳥繁殖地であり、8種類、約100万羽の海鳥が繁殖しているとされています。世界でオホーツク海周辺のみで生息しているケイマフリの国内最大の繁殖地であること、そして約40万ペアのウトウが繁殖する世界最大の繁殖地であることは特筆すべきことでしょう。地元の研究者の話では、この二つの条件に当てはまる海鳥繁殖地は世界に類を見ないそうです。また、ウミネコは日本近海だけに生息するカモメの仲間です。天売島には約5000羽が繁殖しており、さらには、島の西側の断崖が日本において唯一ウミガラス（オロン鳥）が繁殖する場所であり、世界最南端の繁殖地でもあるのです。

最初の2枚はケイマフリの写真です。ケイマフリは切り立った断崖の岩の隙間に巣を作っており、子育て中の番が多く見られました。必ずしも巣の近くに適当着陸場所があるとは限らないようで、時々着地点から凸凹した岩の上を歩いて移動していました。右ページの下の写真は、草地や岩場に営巣しているウミネコの数をご覧いただきました。ノスリ（トビより一回り小さい猛禽）が上空を飛んだため、警戒して一斉に飛び立ったところです。一時期はウミネコの数が増減し、心配な状況になっていましたが、近年は順調に回復していると聞いています。

最後の鳥がウトウです。夏の繁殖期に上の嘴に現れる突起が特徴的で、英名のRhinceros Auklet（サイのようなウミズメ）は、言い得て妙と思います。ウトウの帰巣がピークとなるのは日没以降。暗い中での単独観察はウトウの生態に負荷をかけますので、地元のナイトツアーに参加しました。多くのウトウの巣穴。雌雄で育雛する。日中は海上で餌を捕るが、夕暮れ時に一斉に帰巣。早朝暗いうちに海へ餌捕りに出かける。

今回、天候の悪化により、ウミガラスの観察・撮影を断念せざるを得ませんでしたが、次回はずいぶん観たいと思います。読者の皆さまも、天売島を訪れることをご検討くださいませ。日本の宝であるこの島の、心温まる人と海鳥の共生が末永く続きますよう、心より願っています。

ウミネコ

46.5cm カモメ科

日本の代表的なカモメの仲間。世界的な分布は狭く、太平洋西部の日本近海に生息する。小型で足が黄色く、尾羽の太い黒帯が特徴的。「ミャーミャー」と鳴く。

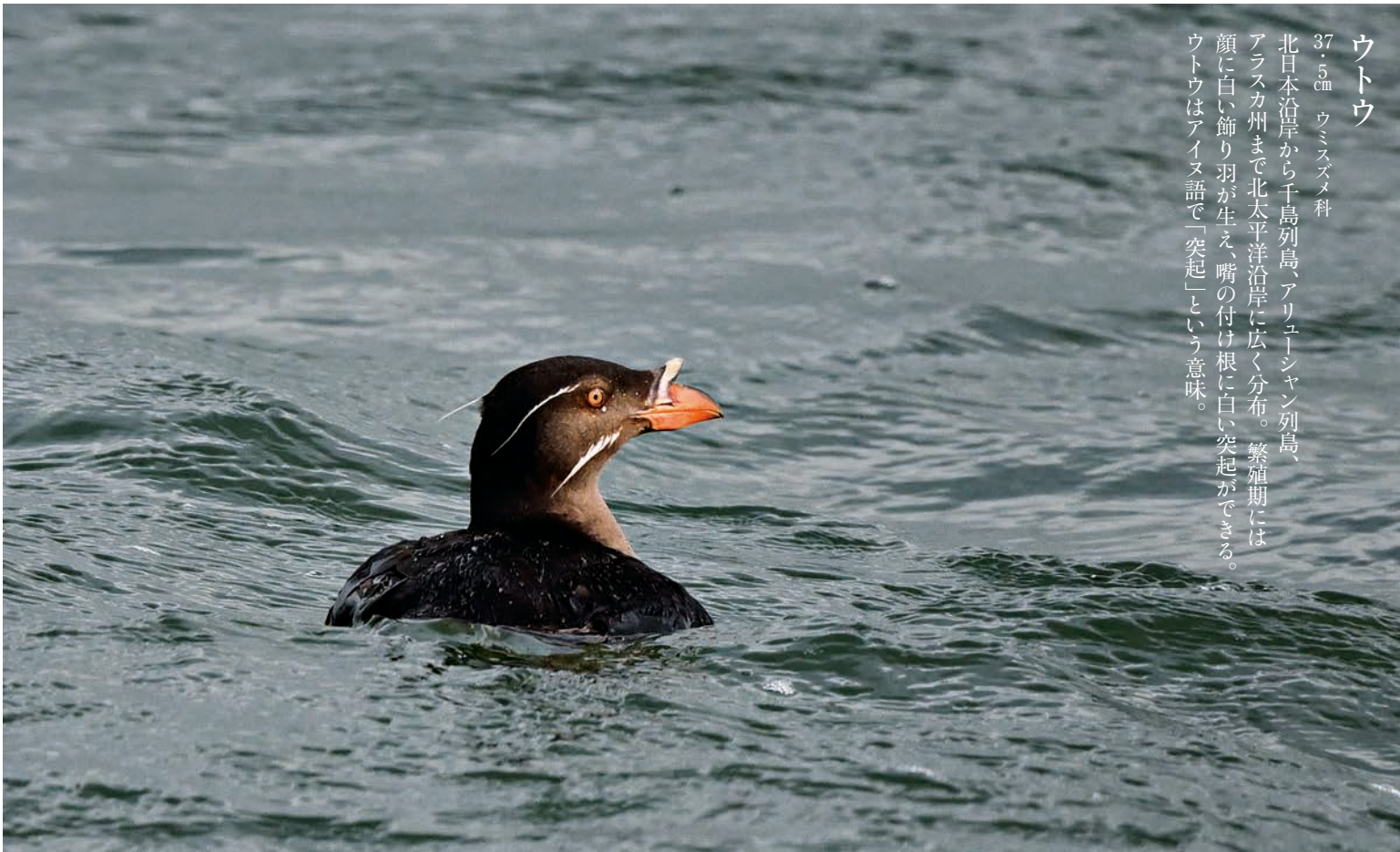


ケイマフリは、ケマ（足）・フレ（赤い）というアイヌ語が名前の由来。赤い足は立っている時だけでなく、飛行時にも目立つ。水面近くを直線的に飛ぶ。

ウトウ

37.5cm ウミズメ科

北日本沿岸から千島列島、アリューシャン列島、アラスカ州まで北太平洋沿岸に広く分布。繁殖期には顔に白い飾り羽が生え、嘴の付け根に白い突起ができる。ウトウはアイヌ語で「突起」という意味。



ウトウの巣穴。雌雄で育雛する。日中は海上で餌を捕るが、夕暮れ時に一斉に帰巣。早朝暗いうちに海へ餌捕りに出かける。